

1年生合同バンド

●行進曲「K点を越えて」

高橋伸哉

March "Beyond the Critical Point"

Shin'ya Takahashi (b.1968:日本)

全日本吹奏楽コンクールでは、毎年4～5曲の課題曲が作曲されている。この曲は1999年度課題曲Ⅳとして発表され、その年のコンクールで多くの団体により演奏された。その前年に開催された長野冬季オリンピックでの、日本人選手の活躍に着想を得て作曲されたもので、題名の「K点」とはスキージャンプ競技の用語で、着地における極限点を意味する。これを越えて飛距離を伸ばすことは着地時に危険を伴うが、現在ではK点を越えるかどうかで勝敗の分かれ目になることも多いという。そのような極限点に恐れることなく挑み続ける選手たちの勇気を讃え作曲された。高橋伸哉さんは作曲活動や演奏指導などを精力的に行っている。

●マナティ・リリック序曲

ロバート・シェルドン

Manatee Lyric Overture

Robert Sheldon (b.1954:アメリカ)

シェルドンといえば、比較的簡単な技術でも高い演奏効果が得られる、教育的配慮された中級向けの作品が多いことで知られている。アメリカの学生バンドでは、日本のような学校単位の活動より、地域合同バンドの方が活動が盛んであるため、短期間の練習でも仕上がりが、かつ、素敵な旋律を持った曲が好まれる傾向にある。この曲はフロリダ州マナティに建設された公共施設のオープニングを祝うため、この街の高校選抜バンドのために1985年に作曲された。輝かしい序奏部で始まり、スピード感あふれる音楽が続く。中間部は速度を緩めて、叙情的に大変美しく歌われる。後半は勢いを取り戻し、力強いエンディングへと突き進む。

●クリスマスキャロル・ファンタジー

星出尚志(編曲)

Christmas Carol Fantasy

Arr. Takashi Hoshide

クリスマスの伝統的な賛美歌7曲のメドレーである。①神の御子は、②諸人こぞりて、③牧人ひつじを、④ひいらぎかざろう、⑤あめにはさかえ、⑥もみの木、⑦ああベツレヘムよ、ラストは冒頭の「神の御子は」が再び現れて曲は終幕を迎える。今回の第25回演奏会は、11年ぶりのX'masイブ開催となった。今宵の演奏会にピッタリな選曲と言えよう。お楽しみに！

●いにしえの道 - 崇高なる紀伊の大自然を讃えて -

八木澤教司

Kumano-Kodo - in praise of the Sacred Mountain Trail

Satoshi Yagisawa (b.1975:日本)

八木澤教司さんは市川市在住の若手作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、いつも専門的なアドバイスを頂いている。今回の練習期間にも、全国を飛び回る多忙なスケジュールの合間に練習会場にお越しになり、1年バンドの生徒たちは、この曲のレッスンを作曲者から直接受けるという貴重な体験をした。管弦楽、吹奏楽、アンサンブルなど幅広いジャンルで次々と新作を発表しており、近年は海外でも八木澤作品の人气が高まっている。

本作は和歌山県田辺市の合併10周年を記念して、今年5月に世界初演が行われた管弦楽曲の吹奏楽版である。未出版の楽譜であるが、八木澤さんのご厚意により、今回の演奏が実現した。八木澤さんが実際に田辺市を訪れ、自らの足で市内各地や、古い街道である世界遺産「熊野古道」を歩き、その中で得られた印象を元に書き上げた曲である。前半は古代からの熊野古道の幻想的な雰囲気展開され、後半は未来へと続く道を感じさせる輝かしい曲となる。

2年生合同バンド

●嗚呼！

兼田 敏

Ah!

Bin Kaneda (1935-2002:日本)

2年バンドも過去のコンクール課題曲で幕開け。こちらは1986年度課題曲B「嗚呼！」。曲名・曲の内容とも、心の奥にある感情を表現したもので、スコアの冒頭には「遅く、真心を込めて」という意味の指示がある。兼田氏は日本の吹奏楽普及に大変尽力した作曲家である。

●交響詩「ローマの祭り」より

O. レスピーギ(編曲:森田一浩)

From "Feste Romane"

Ottorino Respighi (1879-1936:イタリア)

(I)チルチェンセス、(II)五十年祭、(III)十月祭、(IV)主顕祭 ※今回は(I)(IV)を演奏

イタリアの作曲家レスピーギの管弦楽曲のうち、作曲順に「ローマの噴水」、「ローマの松」、「ローマの祭り」の3つの交響詩は、「ローマ三部作」として親しまれている。いずれも吹奏楽編成向けに編曲された楽譜が出版されており、吹奏楽界でも人気が高い。今回演奏するのは三部作の最後を飾る「ローマの祭り」(1928年)である。原曲では4つの祭りが描かれているが、今回は(I)チルチェンセス、(IV)主顕祭、の2つより抜粋して演奏する。最後の主顕祭はローマのナヴォーナ広場の祭りの前夜祭の情景で、踊り狂う人々、手回しオルガン、物売りの声、酔っ払った人などが描かれ、最後は圧倒的なリズムに包まれ、狂喜乱舞のなか終幕を迎える。

●ドラゴンの年

フィリップ・スパーク

The Year of the Dragon

Philip Sparke (b.1951:イギリス)

(I)トッカータ、(II)間奏曲、(III)フィナーレ

スパークは母国イギリスで盛んな金管バンド(金管楽器+打楽器)の曲や、吹奏楽曲を多く手掛けており、この分野では最も有名な作曲家の1人である。1984年に金管バンド曲として作曲された本作は、作曲者自身の手により1985年には吹奏楽版も作られ、今なお吹奏楽界で根強い人気を有する。ウェールズ国の紋章「レッドドラゴン」に着想を得て作曲された3部構成の曲である。スパーク作品は高度な演奏技術が要求される曲が多いが、本作も同様である。また、途中に美しい旋律を持った叙情的な曲が現れるのも、スパーク作品の特徴と言えよう。

■第25回ジョイントコンサート合同練習記録■

※下表の右端は練習開催校

☆10月6日(月) [打ち合わせ] 市川昂高校(各校顧問・部員代表)

2年バンド

第1回	10/25(日)	[1日]	市川昂
第2回	11/ 1(日)	[1日]	市川昂
第3回	11/ 3(祝)	[1日]	市川昂
第4回	11/ 8(日)	[1日]	市川昂
第5回	11/22(日)	[午前]	松戸六実
第6回	11/23(祝)	[1日]	市川昂
第7回	12/12(土)	[1日]	市川昂
第8回	12/13(日)	[1日]	市川昂
第9回	12/19(土)	[1日]	市川昂
第10回	12/20(日)	[1日]	市川昂

1年バンド

第1回	11/ 1(日)	[1日]	松戸向陽
第2回	11/ 3(祝)	[1日]	松戸向陽
第3回	11/ 7(土)	[1日]	市川昂
第4回	11/23(祝)	[1日]	松戸向陽
第5回	12/12(土)	[1日]	国分
第6回	12/13(日)	[1日]	国分
第7回	12/19(土)	[1日]	松戸向陽
第8回	12/20(日)	[1日]	松戸向陽

☆12月24日(木) [リハーサル・本番] 市川市文化会館(大ホール)

2年生合同バンド

●マイ・フェロー・アメリカンズ

清水大輔

- マン・オン・ザ・ムーン・ラスト・エピソード -

Daisuke Shimizu (b.1980:日本)

My Fellow Americans - Man on the Moon Last Episode -

清水大輔さんは新進気鋭の若手作曲家。ケネディ大統領とアポロ計画を描いた「マン・オン・ザ・ムーン」は、人類初の月面着陸に成功したアポロ11号を描いた第1作(2001年作曲)、致命的なトラブルにより月面着陸を断念し、地球帰還さえ危ぶまれたアポロ13号を描いた第2作「ロスト・ムーン」(2007年作曲)と続く。後者は、第22回演奏会(2012年開催)で2年バンドが演奏して大変好評であった。今回はシリーズのラストを飾る第3作(2010年作曲)に挑戦したい。アポロ計画の最後の月面着陸であるアポロ17号、そしてこれまで描かれなかったケネディ大統領の暗殺がテーマとなっており、シリアスな内容ではあるが壮大かつ感動的な大作である。

(I)最後の月面着陸 - タウルス・リトロー地域に降り立つアポロ17号

1972年12月、最後の月面着陸であるアポロ17号をテーマにした楽章。打ち上げから曲は始まり、月面に降り立ったクルーは月面車に乗りタウルス・リトロー谷に到着する。そして、アメリカの国力を全て注ぎ込んだ壮大なアポロ計画は終わり、前作で使われた「大統領の夢」の旋律が再現し曲を閉じる。

(II)大統領就任演説 - 平和への戦略

ここで時間を遡り、1961年1月のケネディ大統領の就任演説の描写である。前2作でも使われたケネディ大統領のテーマ曲が再現するが、前2作とは異なり行進曲風のスタイルとなっている。そして最後は演説を終えた大統領が、ホワイトハウスから月を眺めるシーンとなり、曲は静かに幕を閉じる。

(III)最後の遊説 - 1963年11月22日

ケネディ大統領の運命の日、1963年11月22日の描写である。ダラスの街でパレードが始まるが、徐々に不穏な空気が漂い始める。そして、数発の銃声が鳴り響くと、銃弾を受けた大統領は後ろへ仰け反り車は病院へ急行する。やがて速報番組で大統領の死が伝えられ、深い悲しみを表現して曲を閉じる。

(IV)平和の建設 - 私たちは受け継いでいく

ケネディ大統領の思想、功績を讃える壮大な楽章。タイトルの『平和の建設』は有名なケネディの名演説として知られ、曲はその言葉を象徴するかのよう進む。アメリカ国民が大統領の死を乗り越えるかのような旋律、大統領のテーマがエコーのように再現し、曲は最高潮に盛り上がり終幕を迎える。

アポロ計画、ケネディ大統領、そしてアメリカの全てを讃えて、曲は最高潮に盛り上がり、シリーズ全3部作を総括する壮大なエンディングで感動的に幕を閉じる。まさに、第25回記念演奏会のメインにふさわしい選曲である。これぞジョイント。この演奏は聴き逃さない！。

■ドリーム・クルーズ

八木澤教司

2010年、ジョイントコンサート第20回記念作品。第20回の参加校7校(国分、市川西、松戸矢切、松戸秋山、松戸六実、船橋西、白井)の共同委嘱作です。学校統合等で失われた学校名もありますが、この曲の中に当時の思い出として、今も息づいています。オランダのデ・ハスケ社より楽譜出版されました。各地で演奏されているようで、ジョイント関係者としても嬉しい限りです。